

1 中期学校経営方針

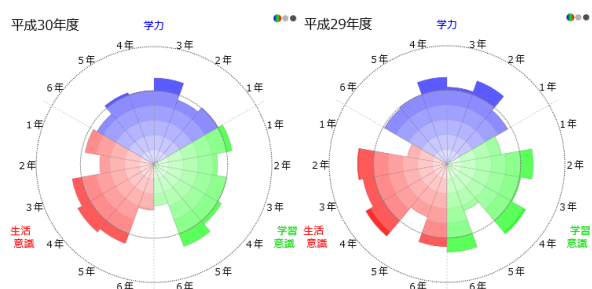
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○主体性・多様性・協働性を尊重し、授業・人・学びの場のつながりを大切にした学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びを通して、「わかる」「できる」を実感し、学んだことを日々の学びや生活の中で活用できるようにします。 ・家庭や地域と目標を共有し、連携することを通して、子どもが安心して生活できるようにします。 ・自分も他者も大切にし、人を思いやり協働しながらよりよく生きることができるようにします。 ・教職員が互いに連携しながらチーム力で課題を解決し、ワーク・ライフ・バランスを大切にして、生き生きと働くことができる。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		基礎基本の定着は大切にしつつ、つながりの中で互いに高め合っていく授業を展開し、自己の表現力、相手を認めていくコミュニケーション能力を高めていく。	① 基礎・基本の徹底を図る。 ② ESDの視点を持ち、人や地域とのつながりを意識した学習展開を計画するとともに、互いにコミュニケーションをとりながら学び合う学習展開を図る。
	担当		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学力については、おおよそ横浜市の平均並みの力が身に付いているが、学年によりバラつきが見られる。特に学習意識や生活意識については低い学年もあり、学年間で差が見られるのが現状である。学年ごとの実態を把握した上で、苦手とする分野の力を伸ばしていけるよう、意図的・計画的に指導をしていく必要があると感じる。

基礎・基本の定着を図るとともに、これからの時代に必要な力をふまえ、学習を通して学んだことを活用していく力・他者とのコミュニケーション力もつけていくことも必要であると考え。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に「話す・聞く」力が高い傾向にある。「書く」力はやや低い傾向が見られる。
- 算数科：全体的に「知識・理解」が高い傾向にあるが、学年によって差が見られる。
- 社会科：ほぼ市の平均並みの学力が見られる。
- 理科：学年によって「技能」「思考・表現」面で差が大きい。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習能力はここ数年、横浜市の平均並みの傾向が見られるが、毎年、学習意識・生活意識ともに、学年によって差が見られる。また、学習意識が低いと生活意識も低い傾向が見られる。今後も引き続き、人との関わり合いや友達との学び合いを大切にした学習活動を工夫していくことで、学ぶ楽しさを味わえる授業づくりを工夫していく必要があると考え。

3 令和二年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつ。
- 生活科等で、個々の思いや願いを大切に、他者との関わりから学びを深める学習展開を工夫する。

2 学年

- 国語科や算数科等で、基礎・基本の定着を図る。
- 国語科等で、書いた文章を発表し合い、友達と感想を述べ合うなど、意見交流する場面を位置づける。
- 大切なことを落とさずに資料や文章を読み取り、課題解決する学習を計画的に行う。

3 学年

- 国語科や算数科で、基礎・基本の定着を図るとともに、理解力の向上を目指す。
- 自分の思いを伝えることができるようにするとともに、友達の考えの良いところにも気づき、伝え合うことができるようにする。
- 興味、関心を持続させながら取り組むとともに、見通しをもって最後までやり遂げる力を育む。

4 学年

- 各教科で身に付けた基礎・基本を活用した学習展開が図れるよう、学習内容を工夫する。
- 自分の課題を明確にし、自信をもって表現できるように励まし、話し合いや学び合う場面を設ける。
- 他者と関わりながら、探求的・協働的な活動ができるような学びの場を設定する。

5 学年

- 各教科での伝え合いの時間を通して、互いの心情を理解したり、自分の考えを発信したりする力を養う。
- 相手と目的を明確にし、場面に合った内容を書く機会を設ける。
- 探究的な学習活動の楽しさを味わう。
- 課題意識をもって、学習と振り返りを計画的に行う。

6 学年

- 各教科での話し合いの時間を通して、自分の考えを発信する力を養う。
- 探究的な学習活動の楽しさを味わう。
- 思考力・判断力・表現力を高めるために言語活動の充実を図り、コミュニケーションの基盤となる言語能力を使いこなす能力を高める。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 日常生活の基本的な習慣を身に付け、集団生活に必要な態度や技能を養う。
- 個々の児童が自立を目指し、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善、克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養う。